



# 技術史教育

第138号

2024.5.31

Education for History of Technology

第138号目次

- 日本技術史教育学会2024年度総会・研究発表講演会の開催に寄せて……坂元愛史(1)  
 日本技術史教育学会2024年度総会・研究発表講演会開催案内……坂元愛史(2)  
 「関西支部2023年度(通算第10回)総会・研究発表講演会」開催報告……南 正晴(3)  
 お知らせ・理事会議事録・編集後記 ……(4)

【総会案内】

## 日本技術史教育学会2024年度総会・研究発表会の開催に寄せて

2024年度総会・研究発表講演会実行委員会  
 実行委員長 坂元 愛史(サレジオ高専)

本年度は二年ぶりにサレジオ工業高等専門学校にて総会・研究発表講演会が開催されることとなりました。前回の2022年度は完全にオンライン上での開催で、本校へ集まったのは運営にかかわる数名のみでしたから、にぎやかな雰囲気の中で開催されるのを楽しみにしています。

さて、その2022年当時は新型コロナウイルスの世界的流行から大きな混乱がある一方で、遠隔会議の実施など今まで踏み出せなかったことに挑戦しようという機運も盛り上がっていました。

ところが残念なことに今ではその多くが元のやり方に戻ってしまい、描いたはずの未来像はいつのまにか霞んでしまったようにも感じられます。

これは、人間というものが少しずつしか変化できないことの現れなのかもしれません。

そんなことを思っていてふと気が付いたのですが、優れていても人の心に寄り添えなかったことで失われてしまった技術や挑戦が過去には多くあったのではないのでしょうか。また、時代に対して進みすぎていたために周囲のインフラが整わず、結局花を咲かせられずに終わった先見性の高い技術も多かったでしょう。

このような歴史に埋没した取り組みが皆様の研究によって再度脚光を浴び、さらに「うまくいかなかった理由」が明らかになればダイナミックに未来につながる可能性があります。これこそまさに温故知新です。

本年度は皆様を久しぶりに本校へお迎えして、過去から未来へのパースペクティブを示す研究が多く発表されることに期待が高まります。この総会・研究発表講演会が明るい社会を構築する礎の一つとなることを夢見て七月を待ちたいと思います。

ところで今回の総会・研究発表講演会では前年度と同様、日本メカニズムアーツ研究会から共催を頂き、特別講演に同会が進めている江戸時代の「機巧」(からくり)の復元について、解説と展示・実演を行います。展示・実演される「機巧」は三点、同玩具十八点で、これらについて以下に簡単に紹介します。

《茶運び人形》江戸時代に発行された技術書『機巧図彙』に記載される一番有名な「ゼンマイ」を使った

茶運び人形で、主人が茶碗を人形の茶托に載せると、お客の前まで進み、お客が茶碗を取ると止まり、再度茶碗を茶托に置くと向きを変えて主人のもとに帰っていきます。これはまさしく現在のサービスロボットそのものであり、顔や足を動かしながら進みます。



《五段返り》『機巧図彙』に記載される「水銀」を使った機巧で、段の上に人形をセットして手を離すと、人形がバク転をしながら段を何段も降りていきます。重心移動を巧みに使った機巧で、音もなく少し止まってから動き出すなど見ても不思議な感じがします。

《品玉人形》『機巧図彙』に記載の「ゼンマイ」を使ったからくりで、小僧が顔を下に向け、手に持った舂をあげれば台の上に品物が有り、舂を下ろして次に持ち上げると前と違った品物が出ています。これは手品をする機巧人形で、四つの違った品物が出てきます。一本の棒ハネの動作で品物を切り替える優れものです。



《江戸の機巧玩具》江戸時代の庶民やお金持が楽しんだ、機巧玩具を幾つか復元

したもので、実際に触れて操作できます。現代も存在している玩具もあります。

これらの図を幾つか掲載しますので、ご覧ください。そして当日の特別講演もどうぞご期待ください。皆様のご参加を、実行委員会一同お待ちしております。